

平成 27 年度「とちぎ農業・農村フォトコンテスト」 の審査講評と入賞作品

本年度で第 5 回目を迎えました「とちぎ農業・農村フォトコンテスト」について、十勝の魅力
を全国に発信し、グリーンツーリズムの展開、農畜産物などの十勝ブランド（Made in 十勝）イ
メージの向上、道東自動車道開通を契機とした交流人口の増加など、管内の農業と関連産業の振
興に資することを目的に、「新たな驚きや感動を受ける十勝の農村景観」と「農業王国十勝の人々
の姿や表情」をテーマとして、8 月 1 日から 10 月 31 日まで作品を募集しましたところ、昨年実
績以上の 112 名 289 点（十勝の農村景観部門 77 名 217 点、農業王国十勝の人部門 35 名 72 点）
の応募をいただきました。十勝管内中心に道内外から多数のご応募をいただき、心よりお礼申し
上げます。

応募作品のうち応募数制限（各部門 5 点まで）で 2 点が失格となりましたが、昨年まで多かつ
た撮影日が規定外となる作品は、応募票を工夫することで解消しました。

さて、審査はテーマに適合し人を惹きつける魅力のある作品を基準に選考致しました。応募作
品の撮影場所は、陸別町を除く十勝管内 18 市町村を網羅し、芽室町＞帯広市＞幕別町＞音更町
＞更別村＞鹿追町の順に多い結果となりました。撮影月では、1 年間通じてすべての月に亘りま
したが、7 月＞9 月＞10 月＞5 月＞6 月＝8 月の順に多く、昨年同様に冬とその前後の季節の作品
は少ない傾向でした。

十勝の農村景観部門では、住み慣れた風景の中でも季節や時間帯によって一瞬の素晴らしい色
彩と大自然の中で躍動感のある作品が選ばれました。

グランプリ作品の「ゴールド・ネット」は長いも畑のネットに朝陽が当たって観たこともない
驚きの景色が広がっています。準グランプリ「おひさまと友達」は春の太陽をいっぱい浴びて成
長する牧草の中を、力強く歩く牛達の姿を表現しています。

農業王国十勝の人部門では、農作業をする農家の表情と、それを取り巻く家族の暖かい眼差し
を表現した作品が選ばれています。

グランプリ作品「おじいちゃ〜ん！」は、三世代同居の農家でトラクターに乗っている祖父に
孫たちが大きく手を振って迎える、暖かく微笑ましい作品です。準グランプリ「ホッと一息」は、
今なお現役の農家が一休みしているところを、お疲れ様という暖かい家族の視線で捕らえたもの
です。

来年度も今年と同じように「十勝の農村景観」「農業王国十勝の人」の 2 部門での募集になる
と思います。是非とも今年以上に新たな驚きや感動を受ける景観と、十勝農業の楽しさや生き生
きとした表情の応募を期待致します。

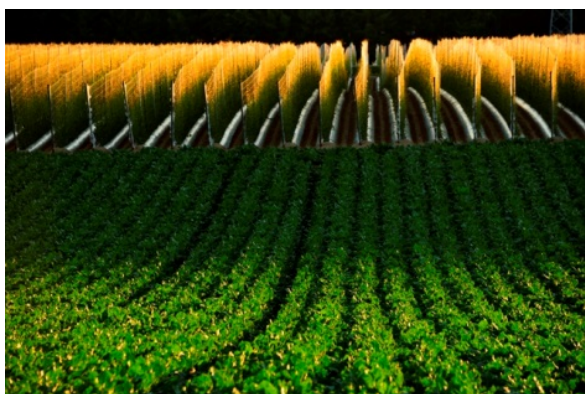
最後になりましたが、応募された皆様への感謝と、入賞された皆さんへのお祝いを申し上げます。また来年も全国から多数ご応募いただきますようお願い申し上げます。

第5回とちぎ農業・農村フォトコンテスト審査委員会

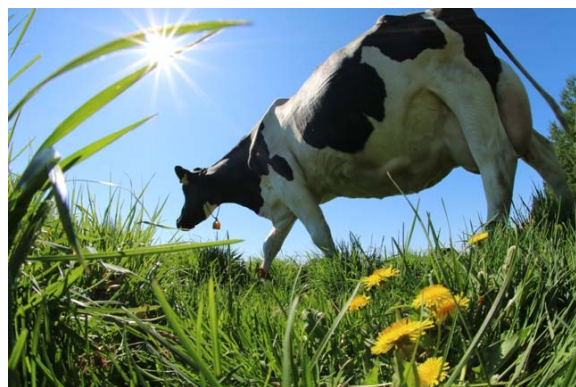
審査委員長	折原 徹也（十勝毎日新聞社 編集局画像部主任）
審査副委員長	山本 健一（NHK帯広放送局 局長）
	阿部 裕貴（北海道新聞帯広支社 報道部記者）
審査委員	伊藤 俊昭（十勝町村会 事務局長）
	秋元 和夫（帯広信用金庫 常務執行役員）
	猪股 透（ホクレン農業協同組合連合会帯広支所 支所長）
	前塚 節子（JA十勝地区女性協議会 会長）
	野口 正浩（十勝総合振興局 産業振興部 農務課長）

平成 27 年度第 5 回とがち農業・農村フォトコンテスト入賞作品（縮小版）

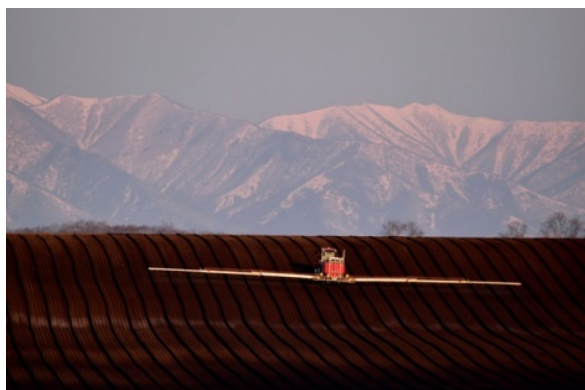
■十勝の農村景観部門



グランプリ「ゴールド・ネット」吉川 民之輔



準グランプリ「おひさまと友達」新村 裕司



優秀賞「Take off」塚本 逸彦



優秀賞「豊穰」三浦 早智子



優秀賞「華やかに」竹田 司



入選「幸福せの大地」山本 雅雄



入選「月光の下」栗野 秀明



入選「金色の恵み」稲葉 久美



入選「にれの木に見守られて」横山 登美子



入選「共存」前川 喜隆

■農業王国十勝の人間部門



グランプリ「おじいちゃ〜ん！」長谷川 美佐子



準グランプリ「ホッと一息」小林 みどり



優秀賞「麦わらの少女」新村 裕司



優秀賞「仕上げは私の仕事」内河 弘至



優秀賞「豊作を願って」西岡 尚央



入選「おやつの時間」松原 明美



入選「伝える想い」吉羽 章一



入選「二人でいっぱい」鈴木 泰孝



入選「コンバインは俺に任せろ」本田 あゆみ



入選「今年も豊作！」吉仲 功